

2021年11月5日

立命館大学体育会クラブのみなさんへ

立命館大学

学生部長 中西 純司

BCP レベル「1」のもとでの体育会クラブ活動のあり方について

現在、全国の新規感染者数は減少傾向にあり、国・自治体の要請レベルはさらに引き下げられています。このような状況に鑑み、立命館大学は11月8日（月）よりBCPレベルを「1」に引き下げることにしました^(*)。

これに伴って、今後の体育会クラブ活動のあり方についても見直しを行い、これまでの活動形態の制限緩和と申請方法の簡素化（Web形式）を図ることにしました。具体的には、各クラブで基本的な感染症予防対策の徹底を継続していくことを原則にして、「通常練習」を除く活動形態を、①「申請（要許可）」が必要な活動形態と、②「報告」でよい活動形態の2つに分けて対応するようにしました。詳細は、スポーツ強化オフィスのHP「Ath-Rits」(http://www.ritsumei.ac.jp/athletes_support/)で確認してください。

このように、BCPレベルが引き下げられ、学内のワクチン接種も進んだとはいえ、コロナ禍が終息したわけではなく、新規感染者数の減少理由も未だに解明されてはいませんので、各自が「我慢からの開・解放感」で油断すると、**第6波の再感染拡大が起こることも十分あり得ます**。体育会クラブのみなさんは、これからも「安全で安心なクラブライフ」を維持していけるよう、基本的な感染症予防対策を引き続き遵守・徹底するようにしてください。

今、体育会クラブのみなさんは、日本人の伝統的な世界観を時間論で捉えた柳田國男（民俗学者）流に言えば、普段通りの日常生活を送れる「ケ」（褻）の状況ではなく、コロナ禍によって普段通りの日常生活を営むことに大きな支障が出ている非常時の不浄な「ケガレ」（穢れ・汚れ）のなかで、スポーツ活動という儀礼や祝祭、年中行事などと同じ**非日常的で開・解放的な「ハレ」（晴れ・霽れ）としてのクラブ活動を実施している**、ということを絶対に忘れてはいけません。

今後も再感染拡大の恐れがある非常時の「ケガレ」のなかで行う「ハレ」としての開・解放的なクラブ活動は、部員一人ひとりが決して「油断」することなく、各クラブで自主的に定めた基本的な感染症予防対策に従って粛々と実施していくことが肝要です。また、各クラブが年中行事としている納会・歓送会などの「ハレ」の活動も同様です。

最後に、新型コロナウイルス禍という「ケガレ」の状況が続くなか、何か不安や不明なことがあれば、いつでもスポーツ強化オフィスまでご連絡ください。

以上

^(*) 今後の感染状況の変化や政府・自治体による要請レベル等の変更が生じた場合には、BCPレベルの見直しを検討するものとします。